

女性の政治参画はなぜ進まないのか!?

講師：三浦 まり さん（上智大学法学部 教授）

日時：2019年6月8日（土）10：00～11：30 会場：イーブルなごや 3F ホール

日本は世界でもジェンダーギャップ指数が低く、列国議会同盟(IPU)の女性の政治参画の最新のランキングでは193カ国中164位です。これは政治分野に女性が少



ないことが最大の理由で、世界平均が25%を突破する勢いで伸びている中、ランキングの対象となる衆議院の女性議員の比率は約1割しかありません。実は日本も90年代以降は女性の比率が増えたのですが、世界130ヶ国でクオータ(quota)＝割当の制度が導入されて女性議員が増えたため、クオータ制を導入していない日本はランクが低いまなものです。また、地方は特に女性議員が少なく、半分以上が「女性ゼロ議会」「お一人様議会」という状況です。

そこで、日本も女性議員を増やすべく、2015年に政治分野における男女共同参画推進法策定のための議員連盟が設立され、クオータ制の導入を目指しました。これは法制局から違憲の可能性を示唆されたため、時代がパリテ(parité)＝男女同数、男女均等へと動いていることも受けて、パリテを理念として法案化し、昨年、候補者男女均等法が成立しました。これには「政党は候補者擁立の際には男女の数の均等を目指す」と明記されましたので、政党は「数の均等」＝男女同数の制約を受けて、努力義務として数値目標を設定しなければなりません。これは大きなことです。

そういう意味では、この法律が効力を持つためには、政党間で競争が起きて、それが持続して波をつくっていくことが重要です。女性議員が増えなければ、有権者が政党に「なぜ増やさないのか」とプレッシャーをかける等、どれだけ持続して関心を持ち続けられるかがこの法律を活かすための鍵になります。

その対策を探るべく、これまで女性議員が増えなかった構造的背景を調べると、そこには支援が得られない家族の壁、様々な席に出なければならない時間の壁、政治は男性のものという意識の壁、女性の自

己評価が低い自信の壁など女性特有の様々な障壁が見られます。女性議員を増やすには、これらの壁を壊したり、はしごをかけたりしなければなりません。

そういう努力をしてまで、女性議員を増やさなければならない理由は、民主主義の議会が、多様な人たちがいろいろな意見を反映させながら政策をつくる場だからです。そこに女性がいなければ、男女で大きく違う経験から生まれる、性暴力やセクハラ、子育て、介護に対する女性の問題意識を政策に反映することができません。これは大きな問題です。したがって、女性の政治参画が少ないと気づいたら、増やしていく努力が必要なのです。

その具体的な対策の一つとしてクオータ制がありますが、これは女性枠等の枠を設けて取って女性を増やす手段です。それに対して、パリテは男女半分ずつで意思決定をしなければならないという民主主義の原則であり、それを反映したのが、前述の候補者男女均等法になります。



この法律を基に、女性議員の成り手を増やすことも重要です。私は昨年「パリテ・アカデミー」を設立し、主に若い女性を中心にトレーニングを行っています。そこで自信を得て、実際に政治家になろうと思う人が増えている手応えを感じていますが、同時に「個人的なことは政治的なこと」と考えて、同じ問題を抱える人たちがつながって、政治のシステムを一緒に変えていくことも必要です。主体的に政治に関わる人、それを支える人が同時に増えていくことが、女性の政治参画を増やしていくための重要な取組みだと思っています。

(文責：イーブルなごや指定管理者アイ・コニックグループ)